

飲んで、食べてジモトを応援！
仙台食堂 2020
in 勾当台公園市民広場

新型コロナウイルス感染症対策についての効果検証報告書

<主催>
仙台食堂2020 実行委員会

【 基本計画 】

仙台市屋外モデルイベント開催支援事業 補助対象イベント

- センダイイヨウトウ ニセロニセロ
- (1) イベント名称 **仙台食堂2020 in 勾当台公園市民広場**
- (2) 開催日時 **2020年11月14日(土)**
Part 1 / 10:00~14:00
Part 2 / 15:00~19:00
- 2020年11月15日(日)**
Part 3 / 10:00~14:00
Part 4 / 15:00~19:00
- ※2日間で4つのパートに分けて開催(各パートごと完全入替制)
各パートともに最大入場者数800名限定
会場内への最大滞在時間は4時間まで
- (3) 実施会場 仙台市青葉区: 勾当台公園市民広場
- (4) 主催 仙台食堂 2020 実行委員会
- (5) 入場方法 有料チケット入場制/入場券 お一人様: ¥1,500円(税込)
※入場券は各Partごとに1人1枚必要
※但し、入場券1枚につき小学生以下のお子様は1名同伴可(無料)
※飲食券500円×2枚付き(追加飲食は各出店社ともに現金にて対応)
入場チケット代金のうち500円は、会場内新型コロナウイルス感染症対策費用及び仙台市内医療現場への寄付に充てる。
- ※当日券/お一人様: ¥1,700円(税込) ※事前告知なし
⇒ 開催直前に ¥1,500円(税込) に変更
- (5) イベント内容
- ①Save the Restaurante
生産者×飲食店コラボブース、各飲食提供ブース、キッチンカー横丁
- ②ステージイベント
宮城ゆかりのアーティストによるライブステージの開催
出演: 11/14(土) 萌江・竹森マサユキ・坂本サトル
11/15(日) 岸辺紗采・ヨシヒデ・伊東洋平
- (7) 後援・協賛 後援: 仙台市青葉区
協賛: アサヒビール(株)/麒麟ビール(株)
サッポロビール(株)/サントリー酒類(株)
- (8) 特記事項 新型コロナウイルス感染拡大防止のため会場をフェンスで区切り、密対策を実施。
ご来場においてはマスクの着用必須、入口ゲートでの検温・ご記名、各エリア入退場口での手指の消毒を実施。

①会場キャパシティ設定

- ・企画段階から仙台市のガイドラインを遵守
- ・会場面積 = 約3,000㎡（内既存及び仮設設置物を1,400㎡と算出、実行有効面積を1,600㎡と設定）
 実行有効面積：1,600㎡÷4㎡ = 400人
 各パート4時間の開催であるため、1人あたりの滞在時間を2時間と仮定し、
 400人×（4時間÷2時間） = 800人

= 最大入場者を800名とした上限を設定



②入場チケット制の導入

- ・どなたでも自由に入場できる形式ではなく、会場内に入場できるお客様の人数制限及びコントロールを目的とした来場希望者向けの「有料入場チケット制」を導入。

= 前売・当日売 有料¥1,500というハードルを設定



③最大滞在時間制の導入

- ・1日を10:00~14:00、15:00~19:00の2パートに分割しての完全入れ替え制。
2日間で計4パートの開催。

= いわゆる時短営業化し、お客様の来場抑制効果も狙う

※【有料チケット入場制】
会場内に入場できるお客様の人数制限、及びコントロールを行うために導入。

A 【外周まわり】

- イベント実施エリアの外周にイレクターフェンスを設置し入場規制を実施
- 入場口を2箇所に設定することで入場待機列の分散を図る
- 待機列用の足元にソーシャルディスタンス確保のためのラインを掲示

B 【入場口：2ヶ所設置】

- 来場記録管理 ⇒以下のいずれかにより入場時に氏名や連絡先の登録が必要
 - ①参加飲食店の店頭で購入した前売入場チケット裏面に手書きで記入する
 - ②入場口に準備した専用紙へ手書きで記入する
 - ③入場口に設置したQRコードをスマートフォンで読み取り、登録する（待機列の縮減策）
- 足用除菌マットの設置
- ハンズフリー手指消毒ディスペンサーの設置
- オートモニター検温システムの設置
- スタッフのマスク&フェイスシールド装着

C 【再入場口（退場口）：3ヶ所設置】 ※リストバンド装着チェック

- 足用除菌マットの設置
- ハンズフリー手指消毒ディスペンサーの設置

D 【出店ブースまわり】

- 待機列用として足元へのソーシャルディスタンス確保サインの掲示
- 店舗スタッフによる店頭前での誘導（人と人との距離を確保するようお声がけ）
- 販売窓口への飛沫防止ビニールの設置

E 【飲食&休憩スペースまわり】

- テーブル・ベンチ・スタンディングテーブルにソーシャルディスタンス確保サインを掲示
- テーブルに飛沫防止ビニールを設置
- 運営スタッフによる定期消毒と清掃（着席者が入れ替わること・全体入れ替え時）
- 風通しに配慮したテントの設置

F 【ステージまわり】

- 観覧席エリアの入場人数の制限&ベンチへのソーシャルディスタンス確保サインの掲示
- 演者と観覧席最前列の距離を確保（4m以上）
- 運営スタッフによる定期消毒（着席者が入れ替わることにより実施）
- 司会者のフェイスシールド装着
- 演者マイクの個別手配（マイクの使い回し禁止）
- ケータリングドリンクの共有禁止（個人ごとのペットボトル配布）

【全運営・出店関係者・ステージ出演者対応】

- ◎本番1週間からの検温及び9項目の体調チェックシート記入
- ◎本番1週間からの行動履歴記入（密を生じる場所への滞在記録や体調不良者との接触歴等）

●来場されるお客様、主催者・出店者・運営関係者・出演者にて共有する「基本行動ルール」

▼基本的感染対策：接触感染・飛沫感染・マイクロ飛沫感染への対策

- ・物理的・身体的距離の確保（できるだけ2m、最低1メートル）・接触機会を減らす。
- ・マスク着用必須・大声を出さない・咳エチケットの徹底（飲食時以外はマスクの着用を促す。）
- ・手洗い、手指消毒の励行
- ・屋外でも「三つの密」（密閉・密集・密接）の回避に努める。
- ・日常の健康管理（体温測定、健康状態チェック）
- ・電子決済の導入・活用による接触機会の削減
- ・事前広報物において来場するまでに新型コロナウイルス接触確認アプリCOCOAのインストールを
行っていただくよう推奨する。（主催関係者はインストールを必須とし、入場時に稼働確認を行う。）

●会場への入場におけるルール

▼以下のどれか一つでも該当する項目がある場合は主催・運営関係者であっても当日の来場は遠慮いただく。

＜入場前事前チェック項目＞

- ・業務に従事するイベント開催当日または前日に37.5℃以上の発熱・咳・下痢・味覚障害・嗅覚障害・
だるさ・息苦しさ等の症状がある者。
- ・新型コロナウイルス感染症の陽性と判明した者との濃厚接触がある者。
- ・同居家族や身近な知人の感染が疑われる者。
- ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域等への渡航及び
当該国・地域の在住者との濃厚接触がある者。
- ・新型コロナウイルス感染症の陽性判定を受け、現在医師から自宅待機指示を受けている者。

●実施会場における基本的対応

- ・原則、場内に滞在する全ての者にマスク着用を義務化（出店者などはフェイスシールドとの併用も別途検討）
- ・会場内（周辺含む）では主催者・出店者、来場されるお客さまを問わず、人と人との確保すべき
間隔は最低1メートルを原則とする。

※入退場時、飲食物販ブースでの待機列、設営・撤去時などの一切を対象とします。

- ・会場内では上記「基本行動ルール」、及び＜「新しい生活様式」の実践例＞に基づき、
場内アナウンスや新型コロナウイルス感染症対策に関わる各種注意喚起ボードの掲出などにより
その周知徹底を図る。

- ・来場されるお客さまには上記基本事項とともに「主催者の指示に従わない場合には退場して
いただく等の措置をとる」ことについて、事前に告知する。

開催中はもちろん、開催時間の前後・休憩時間等においても場内整理・警備員により来場される
お客さまに上記対策の徹底を図る。

- 有料チケット入場制（各Partごと最大で800名の来場者制限・売切次第販売終了）
- 入場時は入場口①または入場口②のいずれかのみから入場可能 ※下記図面の○が入場口
- 入場の流れ
 - ① 手指アルコール消毒の実施／マスク着用確認
 - ② 検温チェック
 - ③ 入場チケット確認
 - ④ 来場記録（記名 or アプリ登録の確認）
 - ⑤ 飲食券お渡し&入場管理リストバンド装着
 - ⑥ 各配布物ご案内・受取り～入場



※各再入場口はリストバンドの装着の確認で自由に入出りが可能

ご来場いただいた全てのお客様（グループでご来場の場合は代表者様）に
来場した記録として、お名前と連絡先（電話番号）を記録していただく。

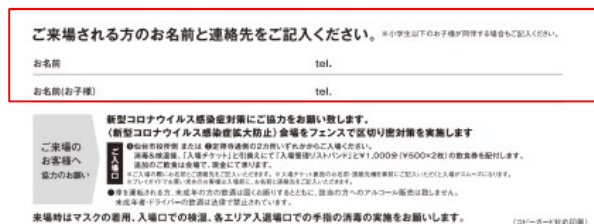
● 出店飲食店での店頭販売＜前売りチケット＞でご入場のお客様

※ 飲食店店頭販売のチケットは裏面に氏名・連絡先の記入欄有り。
事前の記入を推奨済み。入場時に裏面をチェック、無記入の場合はその場でご記入いただく。

表面



裏面



- プレイガイド（ローソンチケット、チケットぴあ）での前売りチケットでご入場のお客様
- 当日券でご入場のお客様

※ 以下、② or ③ のどちらかの方法でお名前と連絡先（電話番号）を記録していただく。

② 来場記録 専用記入用紙
※ 手書きで記入（使い捨て鉛筆お渡し）

③ 入場WEB登録（Googleフォーム）
※ 下記QRコードからアクセスし入力

仙台食堂 2020		11/14 (土) Part 1
お名前		
電話番号 (携帯可)		
ご来場人数 (ご本人含む)	名	

取得した情報は適切に扱い、目的以外の用途には使用致しません。
万一、会場で新型コロナウイルスの感染が確認された場合には
保健所など関係機関への情報提供を行うことを予め
ご了承ください。

or



仙台食堂2020 ご入場フォーム

本イベントにご入場いただくにあたり、
新型コロナウイルス感染防止の観点から、グループ代表者の氏名、ご連絡先、ご来場人数のご入場をお願いいたします。

入力完了画面へ、入口スタッフへご提示ください。

取得した情報は適切に取扱い、目的以外の用途には使用致しません。
万一、新型コロナウイルスの感染が確認された場合には、保健所など関係機関への情報提供を行うことがあることを予めご了承ください。

*必須

名前*

回答を入力

電話番号*

回答を入力

ご来場人数 (ご本人含む)*

選択

送信

Google フォームでスクードを送信しないでください。
このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

【 各エリアごとにおける効果検証 】

どなたでも自由に入場できる形式ではなく、会場内に入場できるお客様の人数制限及びコントロールを目的とした来場希望者向けの「有料入場チケット制」を導入。

◇ 入場チケット販売概要

■ 料金設定／お一人様：¥1,500円（税込）

※入場券は各Partごとに1人1枚必要

※小学生以下のお子様は無料；但し、入場券1枚につきお子様1名同伴可能

※飲食券500円×2枚分付き（追加飲食は各出店社ともに現金にて対応）

代金のうち500円は、会場内新型コロナウイルス感染症対策費用及び仙台市内医療現場への寄付に充てる。

■ 前売り入場チケット 販売チャネル

① イベント出店飲食店での店頭販売

販売期間／10月16日（金）各店舗営業開始時間～11月12日（木）各店舗営業終了時間まで

② プレイガイド販売（ローソンチケット・チケットぴあ）

販売期間／10月17日（土）10：00～11月12日（木）23：59まで

◇ 入場チケット 券種

▽ イベント出店飲食店での店頭販売（4つのパートを色分け）



▽ 裏面共通



※ 飲食店店頭販売のチケットの裏面には氏名・連絡先の記入欄を設け、事前記入可能とした。

▽ ローソンチケット

▽ チケットぴあ



※ 各パートごとに記載を変更

■ 当日券（事前告知なし）販売方法

価格設定／お一人様：¥1,700円（税込）⇒ ¥1,500円（税込）に販売スタート時に値下げ変更

当日券売場は会場に1か所設置／市役所・県庁側 入場口①の隣

当日券販売開始時間／当日の朝9時より2つのPartを同時に販売開始

11月14日（土）9時～Part 1とPart 2の当日券を販売開始

11月15日（日）9時～Part 3とPart 4の当日券を販売開始



■ 準備物＜準備備品＞

- ・ 当日券
- ・ 釣り銭（釣り銭箱）
- ・ 金庫
- ・ カラーペン×セット 4色（青・紫・緑・赤）
- ・ 手指消毒アルコール
- ・ 飛沫対策ビニールシート
- ・ 長テーブル2本
- ・ パイプイス2脚

■ 配置スタッフ

▽ 運営管理ディレクター：1名

● 販売スタッフ：2名

● 待機列誘導整理：2名

■ 課題・反省点

前売り販売期間は1ヶ月も無かったため、期間の短さが不安要素であったが、実際、発売開始当初は売れ行きに大きな動きはなく、開催まで2週間を切った頃から伸び始めた。

⇒今回のような規模・内容では前売りチケットの販売期間は1ヶ月で十分と思われる。

出店される飲食店のうち23店舗で前売り販売を実施。

金券扱いのため、飲食店へのチケット郵送は行わず、チケット納品（各店舗ごとに直接足を運んでの現物納品）、追加納品、精算（最終販売集計&各店舗ごとに直接足を運んで余ったチケットの回収）の際には各飲食店への訪問を行い、さらに販売開始後は定期的に全店舗からの販売状況のヒアリングを実施するなど、全てが手作業であるため、想像以上の手間が発生した。

⇒仕組みに関して再考の余地有り。

最大販売枚数が限られている中で販売チャネルが飲食店店頭販売とプレイガイド（オンライン）のルートに分かれていたことで全体の合計販売数のコントロールには注意が必要であった。

※プレイガイド（オンライン）販売においては手数料、チケット用紙代（金額は契約内容による）を徴収されることにも注意

販売開始（前売り）の段階でチラシ、ポスター等の各種告知物において当日券の告知を同時並行して行わなかったため、当日券の価格がお客様に伝わっていないリスクの回避を優先して当日券の価格を急遽、予定していた¥1,700から¥1,500に変更し、前売り価格と同額で販売した。

⇒広報スタート時から当日券について、明確に告知を行えばクリアできる。

■ 検証結果（総括）

有料チケット入場制、さらに1日を2つのパートに分けての完全入替制と、勾当台公園市民広場ではおそらく初めてに近いと思われる実施形式ではあったが、特に混乱は無かったと思われる。

入場者目標（チケット販売目標）であった800名×4パート=3,200名の集客（販売）には届かなかったが、8割以上のチケット購入結果には結びついたので有料チケット入場制という実施形式の可能性は見いだせた。

ただし、その価格が妥当であるかどうかを充分に見極めて金額設定することが重要と感じられた。

今回は入場チケット1,500円：1,000円分の飲食券付き、残りの500円はいわゆる入場料扱いとなるためお客様がどのように感じられるかが最大の注目点であった。

これについて、会場で行った来場者アンケート200名の結果では

入場者を限定するチケット制に関して⇒ 妥当と感じた：85%、面倒と感じた：15%、

との回答結果であったため概ね受け入れていただけたと思う。

さらに、入場チケット料金に関して⇒ 83%が妥当、9%が安い、との回答結果で90%以上は好意的に捉えていただいたことから、適正価格内であったと思われる。

ただし、チケット購入者=来場者のみからのアンケートであるため、今回の仕組みが適正と思えず、来場まで結びつかなかったお客様が多数いらっしゃることも予想できる。

会場内への入場者数制限を避けて通れないコロナ禍でのイベント実施においては予想以上の入場希望者が来場された場合、入場規制などにより、会場外で待機いただく必要が生じ、会場外でも密集が発生する可能性も否めない。

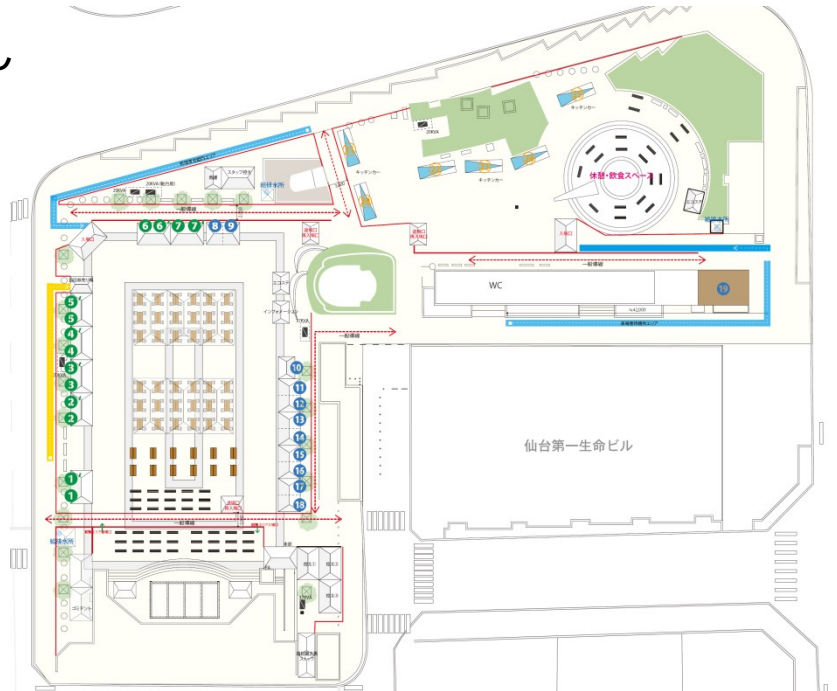
その点、有料チケット入場制では入場者数のコントロールが可能となるため、withコロナでのイベント実施形式の選択肢の一つとして検討する価値は十分にある。

◇会場レイアウト（図面の赤線の位置にイレクターフェンスを設置）

会場の外周にイレクターフェンスを設置し
 入場規制を実施。

※公園への来場者等の通行動線は確保し
 3つのエリアに区分

- ①市民広場エリア
- ②カフェ前広場
- ③ステージエリア



◇入場待機時

オープン前、またはピーク時間帯に入場待ち待機列が出来ることを想定し、
 イベントエリア外での待機時は足元にソーシャルディスタンスを意識していただく
 1mの距離を示すテープを貼り付けし、お客様同士の最低1mの距離感確保に努める。

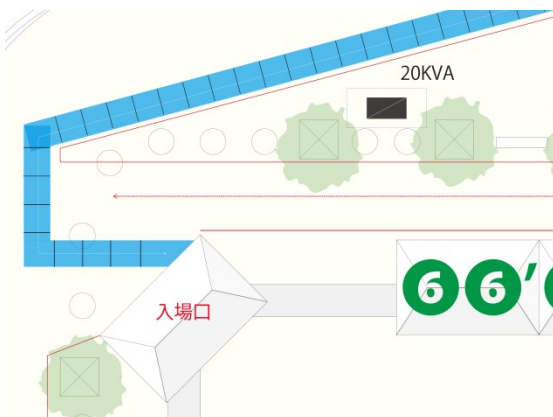
※イベント来場者以外の一般のお客様（公園の通行者）の動線と重なる部分は一般のお客様の
 通行を優先する。

■並んでいるお客様に来場記録（登録）が必要なことを告知し、QRコードが掲載されたボードを掲示、
 または、記入用紙をお渡しし、事前に登録 or 記入を終えていれば入場がスムーズになることを
 ご説明し、ご協力いただく。

◇入場待機列イメージ

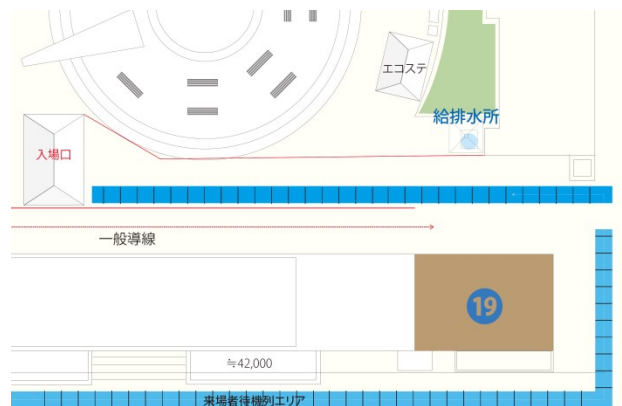
入場ゲート①

市役所・県庁側入場口



入場ゲート②

定禅寺通側227カフェ前入場口





入場待機時の距離確保のための足元にテープを貼った。
 二つの入場口の前に1m間隔で掲示。

入場WEB登録QRコードや入場待機時のソーシャルディスタンスサインの掲示



チケットを購入されていないお客様に向けて有料チケット入場制であることを告知する看板や出店社・出演者などの情報を外周で告知する看板も設置



■ 実施対応

市民広場・カフェ前広場のエリアの外周、並びにステージエリアをイレクターフェンスで囲い、入場規制の実施。（イベントに関係のない一般のお客様の通行動線は確保。）

この一般動線確保によりイベントエリアは

①ステージエリア／②市民広場エリア／③カフェ前広場の3つに区分。

それにより3つのエリアを渡って移動する際にも有料入場者であることを確認するため、入場時に有料入場者である証明のリストバンドの装着と再入場口（退場口）を設置。

さらに1日を4時間ごとの入替制で2つのパート（1日2パート×2日）に分けての実施。

■ 課題・反省点

市民広場・カフェ前の2つのエリア全体を使用する場合、入場待機スペースとして使用できる区画が狭く、入場者が殺到した場合、密集が発生する可能性がある。」
（今回そのような状況は発生せず）

偶然通りかかった方など、イベント内容を把握されていないお客様にはどのようなイベントが行われているかを外周まわりでも理解いただけるような工夫が必要であった。

■ 改善策

実施レイアウトに工夫を施し、待機列を公園区画内で吸収できるスペースを確保することが望ましいと考えられるが、出店ブース数の削減など、実施プランに大きく響くためなかなか良い打開策は見当たらない。

カフェ前広場は待機列スペースとして割り切り、イベントスペースとしては使用しないことがベターと思われる。

また、入場チケットを持っているお客様のみ入場であるため、偶然通りかかった方に向けて、外周まわりでもどのようなイベントが開催されているか理解できる看板やPOPの掲示をさらに充実させられれば、当日券の売上をさらに伸ばすことができたと思われる。

■ 検証結果（総括）

有料チケット入場制という、こちらの会場ではおそらく初めてに近いと思われる運営形態ではあったが、外周まわりでの混乱は無かった。

一般用の通行動線は確保したことからイベント来場者以外のお客様からのクレームも一切無かった。

1パートの場内最大滞在時間を4時間とやや長めに設定したこと、入場口を2か所に分けたことの2点により、ある程度のお客様の分散に効果が出たのか、外周での入場待機列が長蛇になることはほぼ見受けられなかった。

① 手指アルコール消毒の実施／マスク着用確認

- ・手指消毒ディスペンサーでのアルコール消毒実施（各自で行っていただく）
- ・合わせてマスク着用の確認 ⇒ マスクを着用していない場合は予備マスクをお渡しする。

※リストバンド装着のお客様以外では
IDパス、ビブス着用スタッフは
入場を認める。（検温・記録・配布物ナシ）

② 検温チェック

- ・フェイスキャナー（サーマルカメラ）での検温チェック

※フェイスキャナーで異常が見られた場合（37.5度以上）は非接触型体温計で再検温。
そちらでも異常が見られた場合は入場をお断りする。（返金を求められた場合は本部に報告）

③ 入場チケット確認（スタッフが券面を確認の上、前売券ゾーン or 当日券ゾーンに振り分け）

- ・開催中のPartとチケットが合っているか確認 ⇒ 前売券、当日券 2種類有り。
- ・当日券にもPart表記有り

※ここで前売券・当日券で
2列に分かれていただく。

④ 来場記録（記名 or アプリ登録）の実施

■ 前売券のお客様（店頭販売・オンライン販売）

- ・店頭販売前売券は裏面への氏名・連絡先の記入が確認できれば入場を認める。裏面の記入がない場合はご記入いただく。
- ・オンラインチケットのお客様は氏名・連絡先記入用紙への記入、または入場記録アプリでの登録をしていただく。

■ 当日券のお客様

- ・氏名・連絡先 記入用紙にご記入いただく。
- ・または入場記録アプリで登録いただく。

⑤ 1,000円分（500円×2枚）飲食券のお渡しとリストバンドの着用補助

■ 前売券のお客様

- ・青の飲食券2枚 お渡し



- ・来場者にリストバンドを装着する。



■ 当日券のお客様

- ・赤の飲食券2枚 お渡し



- ・来場者にリストバンドを装着する。



⑥ 配布物のお声かけ ⇒ ご希望のお客様にはご自由にお持ちいただく。

■ 前売券のお客様

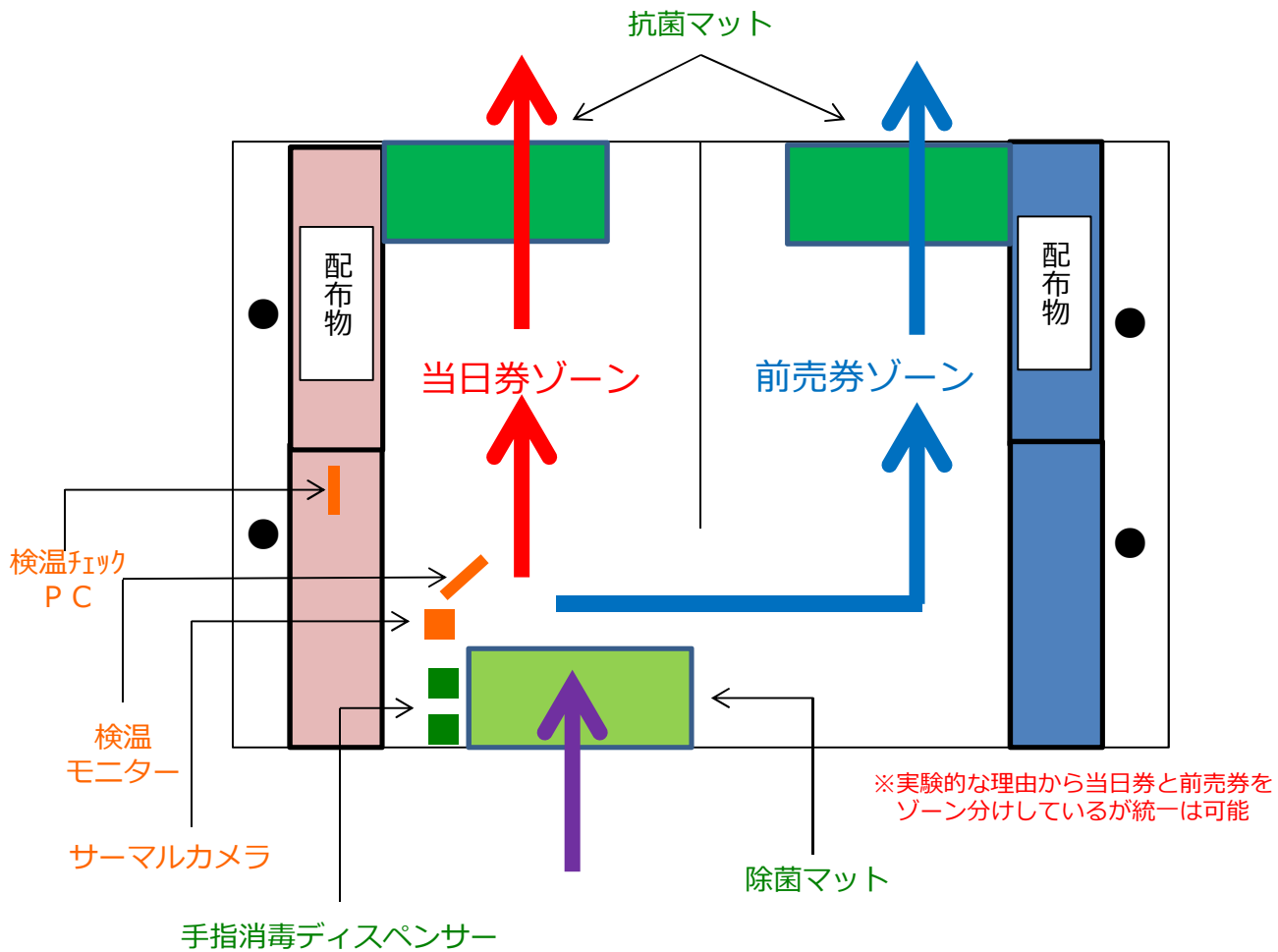
「マスク入れ、
B 4二つ折りリーフレット
ご希望の方はご自由にどうぞ！」



■ 当日券のお客様

「マスク入れ、
B 4二つ折りリーフレット
ご希望の方はご自由にどうぞ！」





■ 入場ゲート 準備物 ×2ヶ所

<準備備品>

- ・ 除菌マット
- ・ 抗菌マット×2
- ・ 手指消毒ディスペンサー×2
- ・ 検温フェイスキャナー（サーマルカメラ）
- ・ 検温チェック用PC
- ・ 40インチモニター スタンド付き
- ・ 非接触型体温計
- ・ 長テーブル4本/パイプイス4脚
- ・ 入場記録アプリQRコード拡大用紙
- ・ 予備用マスク：50枚程度
- ・ フェイスシールド6個
- ・ ビニール手袋 適数

<配布物>

- ・ 500円飲食券
前売券用：青 ・ 当日券用：赤
- ・ リストバンド/各Partごとに色違い
- ・ リーフレット
- ・ 使い捨てマスク入れ

■ 入場ゲート 配置スタッフ

▽運営管理ディレクター：1名×2ヶ所

- 検温スキャナーチェック要員：1名×2ヶ所
（再検温対応も兼務）

※チケット券種（前売 Or 当日）振り分け

- 前売券ゾーン：2名：1名×2ヶ所
・ 来場記録確認・飲食券配布
・ リストバンド装着・配布物声かけ
- 当日券ゾーン：2名：1名×2ヶ所
・ 来場記録確認・飲食券配布
・ リストバンド装着・配布物声かけ

※スタッフはフェイスシールド、
ビニール手袋を着用



外周で入場WEB登録用QRコードをご案内するスタッフは前後にボードを抱え、多くの方にボードを見ていただきやすくする。





■ 実施対応

入場チケットは出店飲食店、プレイガイド（ローソンチケット、チケットぴあ）での前売り、会場での当日券での販売形式とした。

入場口は①市役所側と②定禅寺通り側の2か所に設置。

入場チケット1枚につき小学生以下1名の同伴可。

入場の流れとしてはマスク着用を確認の上、

①アルコールでの手指消毒 ②サーモカメラによる検温 ③入場チケットの確認

④来場記録の協力 ⑤リストバンド装着 ⑥各種配布物のお渡し（お声がけ）で実施。

※使い捨てマスク入れの配布も実施。

■ 課題・反省点

当日券売場を①市役所側の1か所のみでの対応としたため、入場者も①市役所側に偏る傾向が見受けられた。（比率としておよそ3対1程度の割合）

1パートにおける最大入場人数を800名に設定していたが、11/15（日）のパート3のみ800名を超える入場カウントを数えた。理由としては入場チケット1枚につき小学生以下1名の同伴可としたことにより、そのお子様入場数のリアルカウントが当日券売場とうまく連動できなかったことが原因と思われる。

■ 改善策

入場口ごとに当日券売場を設けることが理想だがコスト面とのバランスを考慮した上で判断。来場者カウントにおいてはお子様の同伴を可とする場合は、そのカウントもリアルタイムでしっかりと把握し、当日券売場とのスムーズな連動、情報の共有を徹底する。

■ 検証結果（総括）

受付の仕組みとしては現状考えられる最善の方法が取れたと感じている。会場への最大滞在時間を4時間と、やや長めに設定したことで自然と前半・後半の流れができたのか、来場されるお客様のタイミングが決まった時間に集中することが無かったため心配されていた入場時の混雑、待機時間の長さなど、特段混乱も無かった。より入場受付をスムーズにするためには、最もポイントとなる来場者記録において事前に記入用紙をダウンロードできるようにし、記入した上での来場を推奨すること、またはWEB登録を簡易化させることなどをさらに模索し、できる限り現場での登録作業を生じさせない方法が理想的である。

①リストバンドチェック／マスク着用確認

- ・リストバンドの装着をチェック。各Partごとに色が違うので、そのPartの色のリストバンドかを必ずチェックし、問題なければ通過を認める。
※違うPartのリストバンドを装着している場合は、入場できない旨をお伝えする。
- ・合わせてマスク着用の確認
⇒ ただし、一度、場内に入場し、飲食時にマスクを外したままトイレに行ったお客様などでマスク未着用のお客様が居る場合も考えられるのでリストバンド着用であれば入場時にマスクの着用を確認済みのため入場を認める。

マスクを無くしたというお客様の場合は、準備してある予備用マスクをお渡しする。

※リストバンド装着のお客様以外には、IDパス、ビブス着用スタッフの入場を認める。

②手指アルコール消毒の実施

- ・手指消毒ディスペンサーでのアルコール消毒実施（各自で行っていただく）

入場いただく。

※再入場・退場口③のみGUESTパスでの入場者の検温を実施。

- ・非接触型体温計を1台準備しておく。

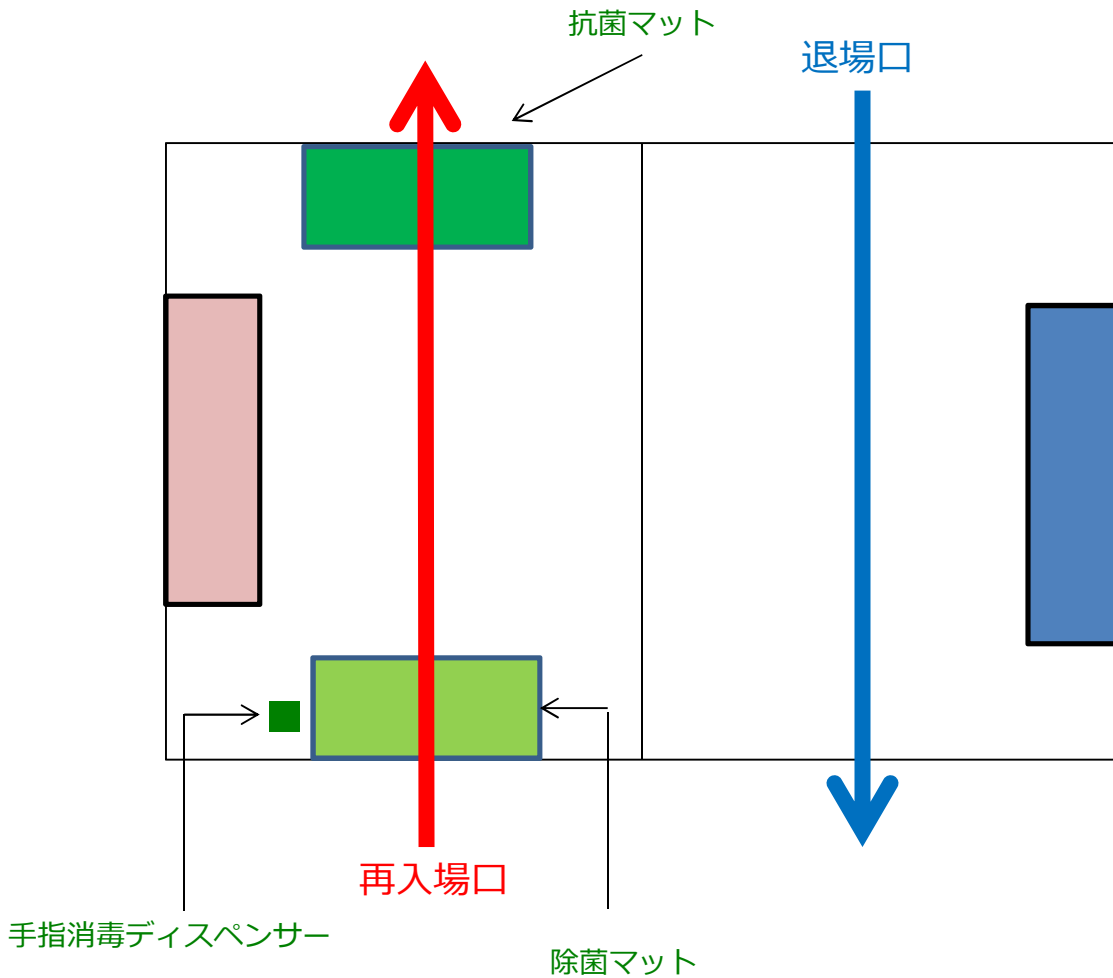
▼退場

ご自由に退場いただく。リストバンドの回収も行わない。
但し、お客様からリストバンドの取り外しをリクエストされた場合はハサミをお貸しする。（万が一、傷をつける恐れを考慮し、こちらでカットは行わない）

▼退場ピーク時 注意点

時間ごとの入れ替え制となるため、退場時間が迫ったタイミングで、退場口にお客様が集中しないように、運営ディレクター、警備員、運営補助スタッフにて拡声器などを利用した声かけを積極的に行い、退場のスピードコントロールを意識し、密にならないスムーズな退場誘導にあたる。

状況に応じて入場口からの退場などの対応もスタンバイ



■準備物 ×3ヶ所

<準備備品>

- ・除菌マット
- ・抗菌マット
- ・手指消毒ディスペンサー
- ・長テーブル2本・イス2
- ・予備用マスク：100枚程度
- ・フェイスシールド
- ・ハサミ

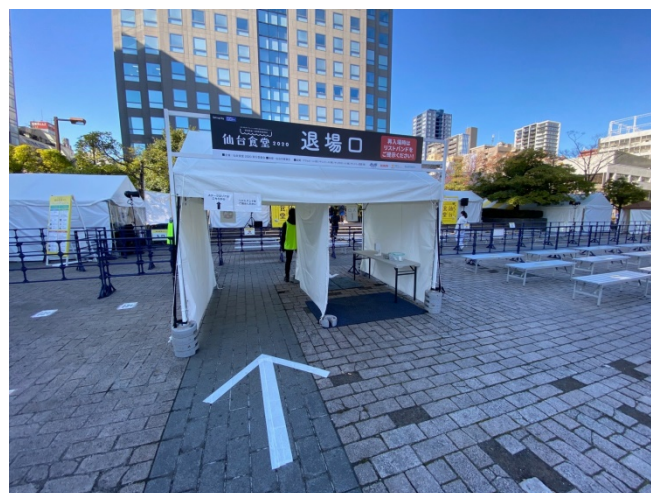
■配置スタッフ

▽運営管理ディレクター：1名(兼務)

●再入場口：2名：2名×3ヶ所

※退場口はフリー

※スタッフはフェイスシールド着用





■実施対応

公園内にイベント来場者以外の方のための動線（通路）を確保するため、①ステージエリア／②市民広場エリア／③カフェ前広場の3つに区分した。異なるエリアへ移動する際、また、トイレ利用のために一時退場する際には、その都度有料入場者であることを確認する必要があるため、再入場・退場口を3ヶ所設置した。（有料入場者であることは入場口でお渡ししたリストバンドの装着で確認した。）再入場の際に、有料入場者であることの証明となるリストバンドの装着の有無を確認するとともに、アルコールでの手指消毒を実施した。

■課題・反省点

3つのエリア分けのゾーニングをもっとお客様に分かりやすく掲示する必要があったと思われる。再入場と退場が同じゲート（テント）のため、場内でのエリア移動時において、エリア移動をするだけなのに一度退場扱いになることに不安を感じられたお客様が多少いらっしゃった。開催時期にもよるが、アウターを着込んでいるお客様がほとんどのため、リストバンドの装着確認の際に腕まくりが必要になり手間に感じられたお客様もいたと思われる。

■改善策

3つのエリアを渡って移動する際に「退場口」と表示されたゲートを潜り抜ける仕組みであったため、戸惑うお客様が見受けられた。「退場口」のみの表示ではなく、「再入場」・「退場口」の並列の表記、もしくは、「〇〇エリア入場口」など、よりわかりやすい表記の検討も必要である。イベント開催中も、各種表示物の修正、場内アナウンスの強化などを行ったため、2日目は1日目よりお客様のエリア移動の流れがスムーズになり、カフェ前広場への集客にも効果が見られた。開催時期（季節）によってはリストバンドでなく、首かけP A S Sなど他の施策も検討する。

■検証結果（総括）

3つのエリア分けのゾーニングをもっとお客様に分かりやすくする必要があったと思われる。①ステージエリア／②市民広場エリア／③カフェ前広場の3つのエリアの移動ごとに再入場口の通過による、有料入場者であることの確認が必要になるので、よりお客様のストレスを軽減するためにはイベント開催時期によってはリストバンド以外の方法の模索も必要。会場ゾーニングに関して、エリアが複数に分かれる場合には、一目で理解できる表示物の掲示や場内アナウンスでのフォローも重要なポイントである。